

White Board

◇「惑星科学夏の学校」開催後記

◇平成11年度宇宙環境利用に関する地上研究公募のご案内

◇次期月探査シンポジウム「セレーネ2号機をめざして」 開催のご案内

◇「惑星科学夏の学校」開催後記

去る8月31日から3日間、本年も惑星科学夏の学校が開催されました。今開催は8月末という例年がない日程ながらも、70余人の参加者を集め、つつがなく行えたことを心よりうれしく思っております。

今年のテーマは「惑星科学のフィールドワーク」と題されました。野外観測のことを一般的にフィールドワークといいます。そのことではなくそれぞれの研究者が自分の中にもってらっしゃる「フィールド」、「観測」、「実験」、「探査」等について最先端の成果も交えて講演をしていただきました。

また今年度の夏の学校は、電磁気夏の学校との共通講演、ポスターセッション、懇親会等、他分野との交流をはかることも試みの一つでありました。また今まで参加されたことのない大学の方々の参加もあり和気あいあいとさまざまな交流が生まれた「夏の学校」であったと思っております。

さて早いもので本年は第10回という節目の開催となりました。「次世代を担う若者よ、来たれ。」私ども制作のポスターにもありましたが、惑星科学を目指すものの登竜門としてこの10年間でさまざまな足跡を残してきました。しかしながら、この10年間でそのニーズは少しづつ変化し、今大会は一つの転換期ともなった大会であったと私は感

じています。

たとえば近年の傾向としてあげられる学部低学年参加の増加についてですが、私は彼らにとってこの学校が惑星科学の扉をたたくきっかけとなれば素晴らしいことであると思っています。しかしながら、こうした目的をもった講演では、修士以上の方には物足りない、レベルアップにつながらないという声があるのも事実です。このことからもう一度夏の学校の存在意義について考え直し、どちらにせよ明確な目的の設定が再度必要であると思っています。

また開催途中に先輩の助手がおっしゃっていた言葉の中で、もっと手作り性を出すべきであるという話がありました。確かに近年の講演は、その道を極められた上の方に講演を依頼する形が多く取られてきましたが、本来学生のための学校であるなら、博士課程の学生が話をし議論するという形も自然であると思われます。これはどちらが良いのか意見が別れるところですが、少なくともより一体感を感じられる夏の学校となるかもしれません。

最後にもっとこの「惑星科学夏の学校」の輪を広げなければいけないと思いました。今回は全大会にポスターを配布するなど今まで参加されたこ

とのない大学の方の参加を積極的に呼びかけましたが、結果多くの参加を得ることができました。彼等にとってこの夏の学校は惑星科学に触れる数少ないチャンスであったと思われます。人材不足が叫ばれる現状の中で、実際に惑星科学に興味があっても触れる機会もない方が多くいることもまた事実でしょう。その数少ないチャンスとしてもっと夏の学校が有意義であればと心より感じているのです。

来年以降も夏の学校はきっと開催されます。その時は、もう一度これらのことについて考えていただきたいと思っています。

とまあ長く意見をつらねてみましたが、私を支えてくれた宇宙科学研究所のスタッフ、並びにお忙しい中講演していただきました先生の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。この場を借りて篤くお礼を述べさせていただきます、この後記をしめさせていただきます。

どうもありがとうございました。

1998年度惑星科学夏の学校世話人

代表 一色賢也

◇平成11年度宇宙環境利用に関する地上研究公募のご案内

国際宇宙ステーションの宇宙における組立が本年11月から開始され、本格的な宇宙環境を利用する時代を迎えようとしております。宇宙環境では、微小重力や高真空等地上では得がたい環境の下で、実験を実施することができます。我が国は、国際宇宙ステーション計画に独自の実験棟（JEM: Japanese Experiment Module）をもって参加しており、今後、このような宇宙環境を利用する機会が飛躍的に増大することになります。一方、地上での広範な分野の研究を宇宙環境を利用する実験に結びつけ、更には具体的な宇宙実験の提案・実施に至るまで地上における関連研究の蓄積が必要です。

本制度は、このようにJEMを中心とした宇宙環境を利用する準備段階として、幅広い分野の研究者に研究機会を提供し、宇宙環境利用に関連する地上研究を推進することを目的としています。

公募制度の概要

●大学、国公立試験研究機関、民間企業などの研究者の方々を対象に幅広く研究テーマを募集します。

●公募対象研究分野（以下の7分野）

微小重力科学，生物科学，バイオメディカル，宇宙医学，宇宙科学，地球科学，宇宙利用技術開発

●研究費

フェーズⅠ研究（フェーズⅠ研究(A)：3千万円以下／年，フェーズⅠ研究(B)：6百万円以下／年，フェーズⅠ研究(B)萌芽的研究 150万円／年）宇宙環境の利用を指向した研究テーマについて、宇宙環境利用の研究の有効性や研究手法、実験手段等について、理論研究、調査検討や地上実験を行うもの。

フェーズⅡ研究（1千万円程度～1億円以下／年）宇宙環境を利用した研究の意義及び有効性が認められ、研究手法や宇宙環境での実験に対する実験概念が明確に定義された研究テーマについて、JEM利用テーマ募集への応募を目標に実験の計画作成及び実験装置等の要求仕様の設定を伴う本格的な宇宙環境利用に向けた準備段階にある研究を対象とします。

●財団法人日本宇宙フォーラム内に、有識者によ

って構成される委員会を設置し、応募された研究テーマの選定等を行います。

●研究形態

研究形態としては、委託研究(大学, 企業), 共同研究(国立研究所), 招聘研究の形態をとります。

●研究期間

1年~3年

●実験施設, 試験施設の提供

研究の必要に応じて調整の上, 落下塔, 航空機の微小重力模擬実験施設等の利用機会を提供いたします。

●スケジュール

・応募締め切り:平成11年1月29日(金)(消印有効)

・研究開始:平成11年7月~

注記:上記事項については, 11月下旬以降に詳細な応募要領等を下記ホームページに掲載する予定です。

●問い合わせ先

財団法人日本宇宙フォーラム 公募研究推進部
募集担当

電話:03-3459-1653 FAX:03-5470-8426

URL:http://www.homepage.co.jp/jsforum

e-mail:koubo@jsforum.or.jp

◇次期月探査シンポジウム「セレーネ2号機をめざして」 開催のご案内

今年度からSELENE(月探査周回衛星)計画が開発研究と認められ, 現在システム予備設計を実施しておりますが, SELENE以降どのような月研究・利用ミッションを行うべきなのか, そろそろ具体的な検討を開始すべき時期が来ていると思われます。そのため2006年頃, H-2Aを用いた打ち上げを想定した次期月ミッションに関して, 様々な観点から自由に討議する場が必要であると考え, 上記シンポジウムの開催を計画しております。多数の方々の講演発表と参加をお願い申し上げます。

主催:宇宙科学研究所, 国立天文台, 宇宙開発事業団

開催日:平成11年3月23日(火), 24日(水)

会場:国立天文台解析研究棟大会議室(三鷹市)

呼掛人:鶴田浩一郎(宇宙科学研究所教授)

水谷仁(宇宙科学研究所教授)

海部宣男(国立天文台ハワイ観測所長)

唐牛宏(国立天文台教授)

観山正見(国立天文台企画調整主幹)

三浦秀一(宇宙開発事業団理事)

長島隆一(宇宙開発事業団先端ミッション研究センター長)

連絡先:宇宙科学研究所

飯島祐一(iijima@selene.sci.isas.ac.jp)

Phone:0429-59-8184

Fax:0429-59-8457

国立天文台水沢

花田英夫(hanada@miz.nao.ac.jp)

Phone:0197-22-7142

Fax:0197-22-7146

宇宙開発事業団先端ミッション研究センター

横山隆明(Yokoyama.Takaaki@nasda.go.jp)

Phone:0298-52-2251

Fax:0298-52-2247

講演内容(案)

一般講演としては以下の3セッションを予定しております。

S1 月の科学(月の内部構造, ベネトレーター, 地質・鉱物探査, 等)

S2 月からの科学（小型実験望遠鏡，将来の月面天文台，等）

S3 月探査技術（夜間サバイバル技術，月面ローパー，掘削技術，等）

日程（案）

3月23日（火）9：30開演

基調講演：これまでの日本の月探査計画と将来展望（予定）

一般講演

18：00～懇親会

3月24日（水）9時30～15：00

一般講演

15：00～17：00 ディスカッション（ワーキンググループの設立について。）

講演の募集

上記のセッションで講演を多数募集いたします。
一講演あたり15～20分を予定しております。

講演／参加の申込方法

今回のシンポジウムでは，シンポジウムホームページにて申し込みを受け付けております。

ホームページアドレス：

<http://hope.tksc.nasda.go.jp/selene-2/>

[申し込み手続き] をクリックし書式に従ってお申し込み下さい。またe-mail，FAX，郵送にても申し込みを受け付けております。下記の書式に従いお申し込み下さい。

1. 氏名及び所属
2. 通信先 [郵便番号，住所，氏名，電話番号，FAX，e-mail]
3. 講演の有無（講演の場合希望セッション）
4. 使用器具（OHP，ビデオ〈VHS〉，その他）
5. 講演題目
6. 講演概要（数行程度）

申し込み締切：平成11年1月31日

申込先：(e-mail) selene-2@moon.nasda.go.jp

(FAXまたは郵送) 〒105-0013 東京都港区浜松町1-29-6 浜松セントラルビル8階 日本宇宙フォーラム 次期月探査シンポジウム事務局 宛

Phone：03-3459-1652

Fax：03-5402-7521